

2009
 平成21年1月(2008年) No.517

新年ご挨拶

今年も元気で明るい年でありますように

会長 合原 一夫

あけましておめでとうございます。世の中は不景気風に見舞われ、政治の世界でも混沌とした世情ですが、わが映像仲間は幸いにして皆さん元気でビデオを核として楽しみ合ってきました事はご同慶の至りです。ただ残念だったことは森保信世話役が昨年3月に急逝されたことでした。皆さんも健康を過信することなく、自らを勞われて末永く元気でいてほしいと祈念しております。

ビデオの世界もハイビジョンが一般的になり、わがOMCでは従来からの4:3作品が昨年度遂に11%となりました。その中に私も入っているのですが、皆さんがずっと先行されて前向きに難しいハイビジョンに取り組んでおられる姿を眺めながら、会長としての私はむしろ喜ばしい思いをしております。40名の会員を抱え、毎月平均16本強の作品出品(昨年度実績)と例会出席者27名平均を数えて活況を呈しているわがOMCは、日本一活動しているクラブではないかと自負しております。今年も頑張ってください。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

今年の撮影会は5月に近江八日市の大凧揚げで企画

毎年恒例の一泊二日撮影会は、12月末に行われた世話役会で、5月第4日曜日に行われる「近江八日市の大凧揚げ習俗」にしたらどうか、という意見がまとまりましたので、その方向で企画を進めたいと思います。したがって5月の例会日は第4土曜日を変更して第5土曜 30日となりますので予定しておいて下さい。

1月例会と新年会のお知らせ

1月例会は通常と異なり第3日曜日 18日 13時からとなりますのでお間違えの無い様に願います。場所はいつもの例会場です。例会終了後、直ちに総会を開催します。総会の後、5階のスーパードライ難波に席を移して新年会を催します。出欠ハガキ未提出の方は至急投函願います。

全国コンテスト

入賞おめでとうございます

1. 第6回国際アマチュア映像祭
(FISH EYE 2008) コンテスト
自然部門 第1席 「神苑二景」
有村 博さん
2. 第20回とよたビデオコンテスト
自然部門 「赤目溪谷を歩く」
有村 博さん

例会記録

例会を盛り立てていくには、まず会員さんの出席と作品の出品。年12回休まずに出席し、かつ出品する、ということは大変なご努力があった筈。まずは多く出席して頂いた方、また出品して頂いた方に敬意を表したいと思います。

■全例会出席者：有村、江村、紙本、黒田、進藤、関、華岡、増池、吉岡の9氏。

■11回出席者：井上、奥、河合、合原、前田、山本の6氏。

■全例会作品出品者(12本)：有村、江村、紙本、増池の4氏。

■11本出品者：井上、奥、前田、山本の4氏。

以上の方々には、例会運営に多大なる貢献をして頂いたことに対し、総会の席にて粗品(ミニDVテープ)を進呈します。

年度賞は総会の席で発表します

■第24回日本を縦断する映像発表会

2月8日(第2日曜)12時より、大阪市立中央図書館にて開催。OMCからは、上総、黒田、関の3会員さんが出品しておられます。皆さん是非お出掛けください。

12月例会レポート

今年も遂に最後の例会となり、30名の会員さんの出席と17本の出品があり、時間オーバーの大盛会でした。司会は安居さん、書記、合原さん、上映係は河合、増池、江村の3名の方、受付け兼照明係は渡邊、奥、の2氏の担当で会を進行しました。

■出席者：有村、石垣、井上、江村、岡本、奥、上総、河口、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、上田、西井、錦、西村、華岡、藤原、前田、増池、宮崎、森口、森下、安

居、山本、吉岡、渡邊、宮井の30氏。

■上映作品(今月の講評は合原会長です)

1. 今さら七坂されど七坂
錦 務さん 6分33秒

大阪の上町台地にいわれる「七坂」と呼ばれる7つの坂があり、歴史に色どられたこのあたりは散策コースとしても人気があるようです。作品はこれらの坂を歩いて丁寧な案内されます。愛染坂では「愛染かつら」のメロディが流れてきて印象が深まりました。大江神社ではインタビューをされていました。1カット位は欲しいところです。まずは無難にまとめられた作品でした。

2. 青洲まつり
岡本 至弘 17分40秒

和歌山県紀ノ川市で行われた華岡青洲ゆかりの祭りの行事。作者は4:3映像が消えてゆく現状に、あえて4対3の長編作品を持ってきたとのコメントがありました。作品はドラマ部分と行列部分の二つから構成されていますが、行列は青洲の花嫁になるための嫁入り行列なので、ドラマの前に来るべきではないかと思えます。青洲にまつわる話をもっと調べて、自分なりの思いを綴った作品にすれば立派な作品になると思えます。それにしても17分40秒は少々長すぎました。

3. お伊勢さん(W)
増池 茂さん 7分35秒

外宮から内宮、そして大王崎の漁港、灯台へと足を伸ばして撮影してこられました。

お伊勢さんを丁寧に撮られていて結構ですが、唯、撮ってきましたという域を出ていないのが残念。お伊勢さんに対する自分なりの思いや感想をぶっつけられたら良い作品になると思えます。大王崎はお伊勢さんと異質のもので、題名に工夫するか、別作品にするか、或いは脚本によっては活きると思えますが考えてみて下さい。

4. 彦根お城まつり 江戸時代絵巻(W)
森口 吉正さん 11分00秒

彦根お城まつりも、なかなか盛大なようです。イントロに薦のはしご芸、タイトルの後はひこやんが登場、井伊直弼の話、助さん角さん水戸のご老公が出たり、子供の

大名行列があつたりして結構大そうな行列絵巻でした。森口さんらしく丁寧な解説入りでよかったのですが、全体の印象としては深く残るような場面が無かったような気がしたのが残念でした。

5. おわら風の盆 (HDV)

西井 学さん 10分00秒

先月持参されたときは12分45秒でしたが類似カットがあつたりするので少し縮めた方がよい、との司会の助言により、今回は2分45秒縮めて持参されました。その分、画面が締まってきたと思います。現録も観光客のざわめきの雑音も少なく、うまく収録されており情感豊かに仕上がっております。

6. 晩秋の石山寺散策 (HDV)

奥 宏さん 9分41秒

石山寺はすっかり観光地化したようで、多数の参拝客が見えます。石山寺の由来とか県最古の木造建築とか、日本で一番古い多宝塔とかの適切な解説がなされています。

紅葉の美しい時期に行かれたのですが、紅葉の本当の色が出ていないように思いました。少し絞りを絞った方がよい発色になったのではないかと、そんな気がしました。

作品の方はしっかり撮影されており、まづまずの出来だったと思います。

7. ベトナム・ホイアンの人びと (HDV)

関 剛さん 9分15秒

ベトナムツアーの折、バスの中に三脚を置き忘れ、あわてて取りに行ったが、バスは出た後だった、仕方なくオール手持ち撮影になった、との作者のコメントがありました。手持ちで撮った映像を如何に三脚使って撮ったかのように見せるために、編集ソフトを使って手ぶれの動きを少なくされた由。なるほど手持ち撮影と思われない位落ち着いた画面に仕上がっておりますがと思いました。内容は世界遺産の古都ホイアンの生活をする人々をスナップ風に撮られたもので異国情緒たっぷりに作品でした。

8. 余部俯瞰を登る (HDV)

前田 茂夫さん 9分58秒

いやはや、まことにご苦労様でした。余部鉄橋を渡る列車を遠くの山の上から俯瞰で撮ろうと、けわしい道なき道を登って

いく作者の姿を他の方が撮影されています。撮影協力者も冷静に落ち着いて取られていました。苦勞して登られただけに余部鉄橋を渡る列車の俯瞰は感激だったことでしょう。第三者の私から見れば、列車は一回切りであった方が、「あっ、あの列車を撮るために苦勞して登ってきたんだ」と、通り過ぎた鉄橋を見ながら哀愁の念に駆られたのではないかと、そんな気がしました。

9. 石山寺晩秋 (HDV)

進藤 信男さん 10分38秒

期せずして今月は2作目の石山寺で二人の競作となりました。但し、この作品は後半ライトアップされた夜の石山寺風景が撮られています。紫式部物語と像、芭蕉の句碑など石山寺本堂関連以外にも目を向けてまとめられています。ラストナレーションで「ゆったりとした気分浸れた石山寺であった」とありましたが、まさにそうした気分になった作品でした。

10. うだつの町・脇町 (HDV)

紙本 勝さん 10分00秒

3万円の旅行券が当たったのでご夫婦で一泊二日の旅へ行かれたときの作品とか。所は美馬市。吉野川の支流。古い町並みが四百米ほど続いているとか。特に「うだつ」という屋根上で隣との境に設けられた、しっくい壁、これは防災を目的としたものですが、隣り同士でその立派さを競い合ったとか、判り易く解説されています。

紙本さんはよく調べてナレーションを書かれていて、いつも感心しているのですが少し気になっていることを述べたいと思います。それは、接続詞が多く全体の文章が長すぎることです。〇〇ですが××でもありますが、一つの例ですが、文章の場合はいいのですが耳で聞くナレーションの場合は、主語の次の述語がずっと長いと、主語がぼやけてしまつて印象が薄くなり理解しづらいこととなります。〇〇です。そして××でもあります。と二つのフレーズに切つて、主語と述語をあまり離さない方がよいと思います。日頃から紙本作品を拝見して感じていたことを述べて見ました。今一度原稿を見直してみてください。

11. おどるんや (HDV)

上田 吉己さん 5分00秒

和歌山城をバックに、よさこい祭り風の若者達の踊りをうまく映像的にまとめられた作品。現場の雑音も少なく良い録音で感心しました。結構な作品でした。

12. 御嶽山周辺の旅 (HDV)

有村 博さん 10分00秒

バスツアーで行かれた由。木曾駒ヶ岳遠望に引き続き赤沢森林鉄道が紹介されます。一駅だけの短い観光鉄道として復活したとか。山奥に突き進んでいく列車の旅は楽しそうです。その後牧場、ロープウェイでの御嶽さん、ラストは天竜下りで締めくくられます。楽しい一泊二日の旅の様子が伺える作品でした。

13. DQFアダプターテスト (HDV)

井上 勝彦さん 6分11秒

スチールカメラ用の望遠レンズを自作のアダプターを使って取り付けテスト撮影された由。何でも新しい分野に挑戦される作者には敬意を表したいと思います。私たちも大変勉強になります。テスト画面では、少々シャープさに欠けている印象が残りましたが、これから更に研究されてモノにされるのではないかと期待しております。

14. YOSAKOI 春の舞 (HDV)

江村 一郎さん 6分00秒

よさこいといえば「江村さん」江村さんと言えば「よさこい」。今回も本場におけるよさこい祭り、アップを主体にインサートカットをうまく取り入れた画面構成はさすがです。現場の音はガンガン大きくて、そのまま録音すると音割れを生じるようですが、音処理もうまく調整されていました。見ごたえのある作品でした。

15. 紅葉の湖東三山へ (HDV)

宮井 健さん 4分15秒

百済寺から金剛輪寺までいわゆる湖東三山を回られましたが、ツアーだったとかで少々あわただしかったです。自分の姿も出したかったので、三脚をすえて作者自身が歩く場面を撮影されています。散策であり参拝或いは観光ですから、歩くにしても、せかせか歩かず、ゆっくりと歩きたいものです。また、後ろ向きが多いのですが、少し歩いて立ち止まり、あたりをゆっくり見回す仕草をして、その後、お寺さん等目についたものをインサートではさみ込む様

な編集をされるとぐっと意図が伝わって来る筈です。向こうから歩いてくるときも同じで、カメラの前3m位のところで立止まり、じっと何かを見る、その対象とするモノ（建物や像など）をインサートするようにしましょう。せかせか歩いてばかりでは、せっかくの拝観が台無しです。

16. 国王誕生日 ワンポー (HDV)

山本 正夢さん 5分30秒

タイ国王、在位60年、80歳の誕生日を祝っての一大お祭り。この日はお酒の販売は禁止とか、盛大なパレードが繰り広げられます。その中をパトカーに先導された国王が乗ったと思われる車が通り過ぎます。沿道には小旗をふる群集の姿が・・・。

日本ではさしずめ天皇誕生日でしょうか、ここまで熱狂的な行事はありません。タイの国王が民衆に慕われている証でもありませんか。但し昨年のタイの政局不安があり2008年度のパレードは中止になったそうです。この映像は2007年のものでした。

17. 西宮まつり みこし渡御 (HDV)

吉岡 貞夫さん 13分35秒

昨年に引き続き西宮戎さんのみこし渡御神事の記録です。まずお払いの神事があり神社参道渡御一行が100メートル程の列となって続き、街へ行列が出ます。ふとん太鼓の姿もありました。途中お旅所で又ここでも神事と少女の舞、いよいよ新西宮ヨットハーバーより船渡御が始まります。お供の船をしたがえて沖へ出、海上にて再び神事、海の平安が祈願されます。最後は淡路島人形浄瑠璃が奉納されて帰路につきました。

西宮神社のこうした一連の行事はやはり吉岡さんでないと撮れない対象で、吉岡さんならではの作品と思いました。何か一つ印象に残るポイントが欲しいところが、行事の記録では欲は言えませんが・・・。

以上で21時15分までかかってようやく本年最後の作品上映も終了し、例によって居酒屋組と喫茶組に別れて2次会を楽しみました。喫茶組のいつもの喫茶店が改装されて大変綺麗にしかも大きくなっていました。